

## 平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年11月7日

上場会社名 塩水港精糖株式会社  
 コード番号 2112 URL <http://www.ensuiko.co.jp>  
 代表者 (役職名) 取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務人事部長  
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月12日

上場取引所 東

(氏名) 浅倉 三男  
 (氏名) 黒田 一晴

TEL 03-3249-2381

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	14,226	—	247	—	585	—	448	—
20年3月期第2四半期	12,703	△6.2	146	14.9	375	16.5	388	△78.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	16.70	—
20年3月期第2四半期	14.48	—

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
21年3月期第2四半期	29,594	—	5,890	19.9	—	—	219.27	—
20年3月期	28,563	—	4,887	17.1	—	—	181.93	—

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 5,890百万円 20年3月期 4,887百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
20年3月期	—	—	—	5.00	5.00
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,000	6.0	470	△8.8	820	△1.6	570	△18.9	21.22

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

## 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
新規 — 社(社名) 除外 — 社(社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年3月期第2四半期	35,000,000株	20年3月期	35,000,000株
② 期末自己株式数	21年3月期第2四半期	8,138,389株	20年3月期	8,137,248株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	21年3月期第2四半期	26,862,021株	20年3月期第2四半期	26,862,972株

## ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

業績予想に関する事項につきましては、3ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

2. 当連結会計年度より、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い、四半期連結財務諸表を作成しております。

## 【定性的情報・財務諸表等】

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融市場の混乱や世界的な経済の減速に加え、原油価格の乱高下、原材料価格の高騰等により個人消費は低迷し、国内景気は後退局面の様相が鮮明になってまいりました。

当第2四半期連結累計期間の精糖業界は、原燃料費の乱高下、景気減速に伴う個人消費の低迷等により引き続き厳しい事業環境で推移しました。

海外原糖市況につきましては、期初13.30セント（ポンド当たりニューヨーク粗糖現物相場。以下同じ。）で始まりましたが、ドルの実効レートが主要通貨に対して全面高になったことから、投機筋の手仕舞い売りが出て、5月22日には11.54セントまで下落しました。その後は、ブラジルにおけるエタノール生産比率の上昇やインドの減産等の理由によりファンド・投機筋の買いが入り、8月1日には16.13セントの期中最高値をつけ、当第2四半期連結累計期末は15.05セントで終了しました。かかる状況の下で、当社の原糖部門は慎重な原糖買付けと為替予約を行いました。

国内精糖市況につきましては、東京上白糖現物相場は期初154～155円（1kg当たり。以下同じ。）で始まりましたが、原油高騰による精糖工場の燃料費、包装資材及び物流コストの大幅な上昇を受け、4月26日に160～161円へ上昇し、その後は保ち合いのまま当第2四半期連結累計期間を終了しました。

事業の種類別セグメントの業績は以下のとおりです。

## (1)食品事業

## 〔砂糖営業部門〕

砂糖営業部門は、原油価格の高騰から工場燃料費、包装資材、物流コスト等の製造販売コストが上昇する中、採算重視の販売に取り組みとともに、コスト削減に努めました。

## ・業務用製品

業務用製品につきましては、6月後半～7月中旬にかけて天候に恵まれ、飲料ユーザー向け出荷好調であったことに加え、ビール系飲料の新規需要もあり販売数量は大幅に増加しました。

## ・家庭用製品

家庭用製品は、小袋製品の品種別出荷にばらつきがありましたが、全体としては前年並みの販売数量となりました。

以上により、当第2四半期連結累計期間の精糖売上高は12,913百万円（前年同期比1,510百万円増）となりました。

## 〔砂糖製造部門〕

横浜市及び大阪府泉佐野市の両工場における精糖共同生産はそれぞれ順調に推移し、ほぼ計画どおりの生産量を確保することができました。

また、引き続き安心・安全な製品の製造と安定供給に努めました。

## 〔オリゴ糖部門〕

オリゴ糖部門は、市販用「オリゴのおかげ」ブランドの一層の浸透を図るため、8月中旬より新規テレビCMを放映し拡販に努めました。併行して、大手量販店や地域有力店を中心とした店頭販促にも注力いたしました。薬系用「オリゴのおかげ・ダブルサポート」は「カルシウムの吸収を促進します」のトクホ表示許可を訴求し、ドラッグ・薬局・百貨店を中心に販売を展開しました。この結果、市販用・薬系用シリーズ製品の売上高はほぼ前年同期並みとなりました。業務用につきましては、前期に引き続き新規ユーザーの開拓と既存ユーザーのフォローに努めましたが、売上高は前年同期の86%となりました。

以上により、同部門全体での売上高は431百万円（前年同期比12百万円減）となりました。

## 〔サイクロデキストリン（CD）部門〕

サイクロデキストリン（CD）部門は、飲料用途が好調に推移しましたが、その他の用途がやや低調で、CD一次品（素材としてのCDそのもの）は販売減となりました。CD二次品（CDを利用した製品）は健康食品向け素材を中心に好調に推移し販売増となりましたが、同部門全体の売上高は438百万円（前年同期比9百万円減）となりました。

また、メタボリックシンドローム対応商材として、血糖値上昇抑制と体脂肪蓄積抑制作用を有するスリランカ原産植物の「コタラヒムブツ」を原料にした加工製品「コタラヒムエキス末（素材品）」及び「コタラヒム顆粒（市販品）」の拡販に努めました。

## 〔研究開発部門〕

研究開発部門は、整腸と免疫調節機能を有するα-結合ガラクトオリゴ糖については飼料分野の用途開発に努め、また肝機能改善効果や関節炎治療効果を有する栄養ドリンク素材グルクロン酸については低コスト化を目指した新製法の開発に努め、それぞれ一定の成果をあげました。乳果オリゴ糖の分野では低コスト化と新たな機能性開発に努めました。CDの分野では、分子レベルで有用な化合物を包み込む技術(分子カプセル化技術)をさらに改良し、成分毎に分子カプセル化法を開発しました。分子カプセル化技術を利用した新素材商品の開発にも取り組みました。

以上の結果、食品事業の売上高は13,783百万円(前年同期比1,488百万円増)、営業利益は539百万円(同125百万円増)となりました。

## (2)その他事業

## 〔不動産賃貸部門〕

関西製糖株式会社に対する大阪工場設備の賃貸等により、売上高は442百万円(前年同期比34百万円増)、営業利益は77百万円(同2百万円減)となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は14,226百万円(前年同期比1,522百万円増)、連結経常利益は585百万円(同56.0%増)、連結純利益は448百万円(同15.5%増)となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

## (1) 財政状態

当第2四半期の総資産は前連結会計年度末に比べて1,030百万円増加し、29,594百万円となりました。これは、主に有価証券の時価上昇等による投資有価証券の増加1,307百万円によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べて27百万円増加し、23,703百万円となりました。これは主に、借入金が745百万円、繰延税金負債が228百万円それぞれ増加し、未払金が969百万円減少したことなどによるものであります。

また、純資産合計は前連結会計年度末に比べて1,002百万円増加し、5,890百万円となりました。これは投資有価証券の時価評価によるその他有価証券評価差額金の増加および繰延ヘッジ損益の増加によるものであります。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上及び減価償却費等により597百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得による支出等により△1,765百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の借入による収入等により609百万円となりました。

以上により、当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の期末残高は702百万円となりました。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

第3四半期連結会計期間以降も、引き続き原糖相場の動きは不安定であることに加えて、株式市場の下落と急激な円高によって国内景気の後退はより鮮明となり、第4四半期においては砂糖消費の鈍化が予想される等、砂糖業界は不透明な状況が続くものと思われます。

このような状況下、平成21年3月期通期業績予想(連結及び単体)につきましては、従来公表しております予想数値の変更はせず、従って以下の通りといたします。

## (1) 連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

売上高	27,000百万円(前期比	6.0%増)
営業利益	470百万円(前期比	8.8%減)
経常利益	820百万円(前期比	1.6%減)
当期純利益	570百万円(前期比	18.9%減)

## (2)個別業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

売上高	19,400百万円(前期比	4.8%増)
営業利益	500百万円(前期比	15.1%減)
経常利益	550百万円(前期比	0.7%減)
当期純利益	300百万円(前期比	33.6%減)

## 4. その他

## (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

## (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

## ①簡便な会計処理

該当事項はありません。

## ②四半期特有の会計処理

該当事項はありません。

## (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続き・表示方法等の変更

① 第1四半期連結会計期間から「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成19年3月14日 企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成19年3月14日 企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

② 棚卸資産については、従来、移動平均法による原価法によっておりましたが「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成18年7月5日 企業会計基準第9号)が適用されたことに伴い、第1四半期連結会計期間から移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

なお、この変更により営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が8百万円減少しております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	702	1,255
受取手形及び売掛金	1,580	1,527
有価証券	10	130
商品及び製品	1,100	919
仕掛品	162	291
原材料及び貯蔵品	946	628
繰延税金資産	67	65
その他	857	879
貸倒引当金	△3	△8
流動資産合計	5,423	5,690
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,213	7,867
減価償却累計額	△3,829	△3,708
建物及び構築物(純額)	5,383	4,158
機械装置及び運搬具	10,348	10,330
減価償却累計額	△7,945	△7,779
機械装置及び運搬具(純額)	2,402	2,550
工具、器具及び備品	304	293
減価償却累計額	△254	△252
工具、器具及び備品(純額)	49	40
土地	5,209	5,209
建設仮勘定	138	974
有形固定資産合計	13,182	12,933
無形固定資産		
のれん	30	40
その他	98	205
無形固定資産合計	128	246
投資その他の資産		
投資有価証券	10,211	8,904
長期貸付金	469	386
繰延税金資産	3	214
その他	175	188
投資その他の資産合計	10,859	9,693
固定資産合計	24,170	22,873
資産合計	29,594	28,563

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	871	647
短期借入金	16,957	15,129
未払法人税等	85	86
未払消費税等	7	103
賞与引当金	65	64
繰延税金負債	2	—
その他	1,079	2,118
流動負債合計	19,067	18,148
固定負債		
長期借入金	2,733	3,816
繰延税金負債	226	0
退職給付引当金	1,335	1,371
役員退職慰労引当金	187	186
その他	154	153
固定負債合計	4,636	5,527
負債合計	23,703	23,676
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	266	266
利益剰余金	5,449	5,136
自己株式	△3,116	△3,116
株主資本合計	4,349	4,036
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,536	981
繰延ヘッジ損益	3	△131
評価・換算差額等合計	1,540	850
純資産合計	5,890	4,887
負債純資産合計	29,594	28,563

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第 2 四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成 20 年 4 月 1 日 至 平成 20 年 9 月 30 日)
売上高	14,226
売上原価	11,857
売上総利益	2,368
販売費及び一般管理費	2,121
営業利益	247
営業外収益	
受取利息	43
受取配当金	169
持分法による投資利益	230
デリバティブ利益	30
雑収入	11
営業外収益合計	484
営業外費用	
支払利息	122
支払手数料	23
雑損失	0
営業外費用合計	146
経常利益	585
特別利益	
投資有価証券売却益	0
特別利益合計	0
特別損失	
投資有価証券評価損	28
役員退職慰労金	3
特別損失合計	31
税金等調整前四半期純利益	553
法人税、住民税及び事業税	88
法人税等調整額	16
法人税等合計	105
四半期純利益	448

## 【第 2 四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

当第 2 四半期連結会計期間 (自 平成 20 年 7 月 1 日 至 平成 20 年 9 月 30 日)	
売上高	7,140
売上原価	5,986
売上総利益	1,154
販売費及び一般管理費	1,059
営業利益	94
営業外収益	
受取利息	22
受取配当金	1
持分法による投資利益	112
デリバティブ利益	25
雑収入	4
営業外収益合計	167
営業外費用	
支払利息	62
支払手数料	11
雑損失	△2
営業外費用合計	71
経常利益	190
特別利益	
投資有価証券売却益	0
特別利益合計	0
特別損失	
投資有価証券評価損	8
役員退職慰労金	3
特別損失合計	11
税金等調整前四半期純利益	178
法人税、住民税及び事業税	40
法人税等調整額	△3
法人税等合計	36
四半期純利益	142



## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成 20 年 4 月 1 日 至 平成 20 年 9 月 30 日)	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	553
減価償却費	456
のれん償却額	10
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△36
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	1
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△4
受取利息及び受取配当金	△212
支払利息	122
為替差損益 (△は益)	△5
持分法による投資損益 (△は益)	△230
投資有価証券売却損益 (△は益)	△0
投資有価証券評価損益 (△は益)	28
売上債権の増減額 (△は増加)	△52
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△369
その他の資産の増減額 (△は増加)	84
仕入債務の増減額 (△は減少)	224
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△95
その他の負債の増減額 (△は減少)	123
小計	599
利息及び配当金の受取額	211
利息の支払額	△121
法人税等の支払額	△92
営業活動によるキャッシュ・フロー	597
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
投資有価証券の償還による収入	120
有形固定資産の取得による支出	△618
投資有価証券の取得による支出	△1,138
投資有価証券の売却による収入	6
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	△0
貸付けによる支出	△330
貸付金の回収による収入	196
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,765

(単位：百万円)

当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成 20 年 4 月 1 日 至 平成 20 年 9 月 30 日)	
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入れによる収入	4,390
短期借入金の返済による支出	△2,540

(単位：百万円)

	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成 20 年 4 月 1 日 至 平成 20 年 9 月 30 日)
長期借入金の返済による支出	△1,105
自己株式の取得による支出	△0
配当金の支払額	△134
財務活動によるキャッシュ・フロー	609
現金及び現金同等物に係る換算差額	5
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△552
現金及び現金同等物の期首残高	1,255
現金及び現金同等物の四半期末残高	702

## 注記事項

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

## (4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報

## 【事業の種類別セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

	食品事業 (百万円)	不動産賃貸事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する 売上高	13,783	442	14,226	—	14,226
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	13,783	442	14,226	—	14,226
営業利益	539	77	617	(370)	247

(注) 1 事業区分は、製品系列により決定しております

## 2 各事業の主要製品

事業区分	主要製品
食品事業	砂糖、オリゴ糖、サイクロデキストリン
不動産賃貸事業	工場賃貸

## 【所在地別セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

本邦以外の国又は地域に所在する在外支店及び連結子会社がないため該当事項はありません。

## 【海外売上高】

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変化があった場合の注記

当第 2 四半期連結累計期間（自 平成 20 年 4 月 1 日 至 平成 20 年 9 月 30 日）

該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期累計に係る財務諸表等

(1) (要約)前中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月 1日 至 平成19年9月30日)	
	金額	百分比
		%
I 売上高	12,703	100.0
II 売上原価	10,464	82.4
売上総利益	2,238	17.6
III 販売費及び一般管理費	2,092	16.4
営業利益	146	1.2
IV 営業外収益	372	2.9
受取利息及び配当金	155	
持分法による投資利益	176	
デリバティブ利益	27	
雑収入	13	
V 営業外費用	143	1.1
支払利息	115	
支払手数料	24	
雑損失	2	
経常利益	375	3.0
VI 特別利益	221	1.7
投資有価証券売却益	221	
VII 特別損失	30	0.2
役員退職慰労金	22	
たな卸資産廃棄損	1	
投資有価証券評価損	2	
会員権評価損	0	
その他特別損失	3	
税金等調整前中間純利益	566	4.5
法人税、住民税及び事業税	208	1.6
法人税等調整額	△ 30	△ 0.2
中間純利益	388	3.1

## (2) (要約)前中間連結キャッシュ・フロー計算書(単位:百万円)

科 目	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月 1日 至 平成19年9月30日)
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前中間純利益	566
減価償却費	404
のれん償却額	10
退職給付引当金の増減額	58
役員退職慰労引当金の増減額	44
賞与引当金の増減額	△ 16
貸倒引当金の増減額	3
受取利息及び受取配当金	△ 155
支払利息	115
為替差損益	△ 0
持分法による投資損益	△ 176
投資有価証券売却損益	△ 221
投資有価証券評価損	2
その他の投資評価損	0
売上債権の増減額	△ 77
たな卸資産の増減額	14
その他の資産の増減額	173
仕入債務の増減額	△ 247
未払消費税等の増減額	15
その他の負債の増減額	△ 92
小 計	421
利息及び配当金の受取額	153
利息の支払額	△ 116
法人税等の支払額	△ 207
営業活動によるキャッシュ・フロー	250
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△ 679
投資有価証券の取得による支出	△ 31
投資有価証券の売却による収入	336
その他の投資の取得による支出	△ 0
その他の投資の売却による収入	0
貸付けによる支出	△ 310
貸付金の回収による収入	132
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 550
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入れによる収入	4,250
短期借入金の返済による支出	△ 4,500
長期借入れによる収入	1,300
長期借入金の返済による支出	△ 1,207
配当金の支払額	△ 134
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 291
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	0
V 現金及び現金同等物の増減額	△ 592
VI 現金及び現金同等物の期首残高	1,200
VII 現金及び現金同等物の中間期末残高	608